

令和2年度坂部小学校学校経営構想

I 歴史と伝統

明治5年(1872年)「学制」の発布を受け、翌6年(1873年)7月16日、坂部村久翁寺に青池学校分校「中里村学校」が設立された。これが本校の始まり(創立)である。そして、明治26年(1893年)1月31日、現在の場所に坂部尋常小学校校舎を新築し、本校開校となった。本年度、開校127周年となる。その後も地域の人々は、人材の育成を重んじ、教育に深い理解を示し続けている。その思いを象徴するのが、大正8年(1919年)10月に制定され、以来百年余にわたり歌い継がれてきた校歌である。本校校歌は、まだ学校に校歌がなかった時代に先んじて作られている。「熱心 勤勉 質朴を村是としたるわが村の」「おしえのさとし 身にしめて」「いざや励まん 文の道」という歌詞には、当時の人々の思いとともに、先進性と教育にかける情熱が込められている。

平成4年(1992年)に坂部工業団地が本格的に操業を始め、平成21年(2009年)には富士山静岡空港が開港した。各所に工場や事務所が作られ、道路整備とともに地元企業に勤める人が多くなり交通量が増加してきた。農家には、茶・みかん・米・レタスに加え、新たな商品作物を栽培する機運があり、地域全体で情熱と誇りを持って農業の活性化にも取り組んでいる。豊かな自然や進取と堅実な地域風土の中で、学校を支える基盤としての地域の存在は、確固としたものがある。

本校教育に脈々と流れる精神は、校歌にある村是「熱心 勤勉 質朴」の心、校章に込められた「勉学 気品 有為」の心、37年間続いている「仲よし学校」の「感謝 思いやり がまん」の精神に表れている。これらを坂部小学校の教育の礎とし、代々受け継がれてきた伝統を大切にして、教育の動向を鑑みながら創造発展させて未来につなげていきたい。

II 児童の実態

- ・明るく元気で、優しい心を持っている。
- ・学年間の絆をこえた強いつながりがある。上級生は下級生に対して優しく接し、教えさとし、下級生は上級生の姿にあこがれを持っている。
- ・学習に対して真面目に取り組むことができる。
- ・やる事が明確になると、一生懸命に取り組むことができる。
- ・「熱心 勤勉 質朴ノート」を使った自学や漢字練習を通して、家庭学習への意欲が高まっているだけでなく、基礎基本の定着につながっている。
- ・粘り強く最後まで取り組んだり、試行錯誤しながら課題解決したりすることが苦手である。
- ・相手を意識しながら自分の思いや考えを表現することが苦手である。

III 目指す学校像とその手立て

- 1 一人一人の「よさ」や「違い」を認めるとともに、人権意識を持ちながら教育活動に取り組むことで、誰もが「学校が楽しい」と思える安心・安全な学校を目指します。
→児童理解と個に応じた支援の充実、危機管理意識を高める(V-2、V-3)

2 「学校教育の中心は授業である」という基本理念のもと、授業の中でも子供が輝く学校を目指します。

→新学習指導要領の趣旨を踏まえた研修の充実（V-1）

3 地域とともに歩み、地域とともにある学校を目指します。

→キャリア教育の推進、総合的な学習の時間の充実（V-4）

IV 学校教育目標、育てたい資質・能力、重点目標

1 学校教育目標 「心豊かで たくましい坂部の子」

< 心豊か > ・自らを律しつつ、相手と協調し、相手を思いやることができる
・真理を追究し、美しいものに感動する

< たくましい > ・より高い価値をめざして挑戦する
・自ら考え、最後までやり抜き、自分の言動に責任を持つ

2 育てたい資質・能力

新学習指導要領全面実施の中、子供たちの実態を踏まえ、本校で育てたい資質・能力を次のように設定した。

- (1) 基本的生活習慣（生活態度、学習環境を整える）
- (2) 共生的な態度（相手の立場や気持ちを受け入れ、よさや違いに気付きながら行動する）
- (3) 読解・理解力（物事を理解したり、自分の考えと比べたりしながら深める）
- (4) 課題解決・情報活用力（必要な知識や情報を活用し、粘り強く解決する）
- (5) コミュニケーション力（相手の話を真剣に聞いたり、他者を意識して話したり、対話を通して自分の見方や考えを伝えたり広げたりする）
- (6) 自尊感情、主体性（自分のよさを知り、主体的に取り組む）

これらの資質・能力を教科横断的な視点で育ていけるように、様々な教育内容を組織的に配列し教育課程編成を行う。特に今年度は、(2)(5)を意識した取組を行いたい。

< 主体的と自主的 >

主体的とは、「何をやるかは決まっていなくても、自分の意志や判断で責任を持って行動する態度」である。例えば、あいさつをしようとする人が、「職場環境をよくする目的」から、あいさつ以外に朝礼を企画する人。

自主的とは、「明確に定まっていることを、人に言われる前に率先して自らやる態度」である。例えば、あいさつをする際に、周りの人に率先して元気よくあいさつすることができる人。

3 重点目標 「夢中になって取り組む子」 （2年目）

令和元年度までは、自己肯定感を高めるために「自己のよさ」に視点をあてた教育活動を進めてきた。そして、令和元年度は「主体性」を身に付けさせたいという願いから、重点目標を「夢中になって取り組む子」とした。「夢中」になって取り組むことで、主体的な態度につなげたいと考えたからである。実際に授業では、「夢中」になって取り組ませるための手立てとして、子供から出された問いを学習問題として提示することを行った。また、行事等では、子供の実態や思いを取り入れるとともに「夢中」

になるための支援を心がけた。これにより、様々な場面で子供たちの「夢中」の姿が見られるようになり、それが自主性へとつながった。しかし、学校評価結果や児童の実態等を見たとき、以下のような課題が明らかとなった。

＜令和元年度本校児童の課題＞

- ・失敗を恐れず、新しいことにチャレンジすること
- ・現状で満足せず、より高い目標を目指すこと（主体的に取り組もうとする姿）
- ・相手意識を持って聞いたり伝えたりすること

そこで、令和2年度は、重点目標「夢中になって取り組む子」を継続し、「夢中の姿」を具体化し更に深めていくことで、「とことん夢中になって取り組む子」を目指したいと考える。そのために、例えば授業では、「教師から子供へ主役を転換する」「子供同士の関わりを通して新たな学びに気付かせる」などを意識した取組を行いたい。

＜今年度、本校の考える「夢中」の姿とは…＞

- ・与えられたものに集中して取り組んでいる。
- ・自ら新しいことにチャレンジし、それに対して一生懸命に取り組んでいる。
- ・自分なりに試行錯誤しながら取り組んでいる。深く考えている。等

友達のおさや自他の違いに気付き、それを受け入れることは、集団生活の土台となる。また、自分のよさを知ることで、やってみようとする意欲の基盤ともなる。そこで、これまで行ってきた「よさ見つけ」を継続し意欲の基盤づくりを行うとともに、そこからわき出る「やってみよう」という思い、失敗を恐れず試行錯誤しながら「やり抜く」過程、その「振り返り」、そして自分や友達のがんばりを「認め合う」ことで更に次への意欲につなげるサイクルをつくり、より高い「夢中」の姿につなげたいと考える。

V 経営の重点

1 学ぶことを楽しいと感じ、自ら追究しようとする力を育てる。(知)

○授業の充実（研修テーマ「見方・考え方を働かせ 夢中になって考える子」）

「学校教育の中心は授業である」

- ・子供が主体となる学習（自分ごととしての学び）の創造
- ・新学習指導要領を踏まえた授業づくり（見方・考え方の構築、評価）
- ・全国学力・学習状況調査などの各種調査を授業改善に生かす
- ・「外国語教育」「ICT教育」の推進

○基礎基本の定着

- ・基礎基本の定着を図るための学年に応じた取組、放課後支援（ぐんぐん）
- ・家庭学習の充実

2 自らかかわり、互いに「よさ」や「違い」を認め合える力を育てる。(徳)

○社会で生きていくために必要な力をつけるキャリア教育の推進（9年間のつながりを考えた小中一貫教育）

○坂部しぐさの継承と発展（縦のつながり）

- ・あいさつしぐさ、きれいな言葉しぐさ、そうじしぐさ、ろうか歩きしぐさ
靴そろえしぐさ、傘とじしぐさ

- 自尊感情の醸成（みかんの木等を使った「よさ見つけ」の励行）
- 「楽しい学校づくり」「よりよい学校づくり」を目指した**主体的な**児童会活動
- 異学年や福祉施設等との交流を通じた思いやりの心の育成
- 道徳教育の充実
- 日常の取組（振り返り、「ハイ」の返事、「さん」付け、名札付け）

3 健康や安全について考え、自らを鍛える力を育てる。（体）

- 体づくりに関する指導（自らを鍛える場の設定）
- 健康づくりに関する指導（心と体を整える場の設定）
- 食に関する指導（食を通じた体づくり・健康づくり、食事のマナー）
- 安全に関する指導（防災教育や防犯教育で自分の身を自分で守る、交通安全指導）

4 学校、家庭、地域が連携し、信頼される学校、職員集団をつくる。

- 家庭・地域と連携した「ふるさと坂部体験」や地域の材を生かした「ふるさと坂部学習」等、つながりのある活動の実施（キャリア教育の推進）
 - ・里やまの会、クラブ活動や読み聞かせのボランティア、施設等との交流
- 「全職員が全校児童の担任」であるという意識で関わる。
 - ・率先垂範、授業を語り子供を語る職員集団に（坂部っ子を語る会 等）
- 社会に開かれた学校（坂部っ子を育てる会 等）
- SCやSSWを通じた外部機関との連携による、児童とその保護者への継続的支援

5 「職員にとっても楽しい学校」であるための働き方改革を推進する。

- 勤務実態の把握
- 軽重を付けた会議や活動の実施（やめる、減らす、かえる）
- 職員間の協働体制、協力体制による負担感の軽減
- 共同学校事務室による教員の負担軽減
- 語り合い、笑い合える職員室